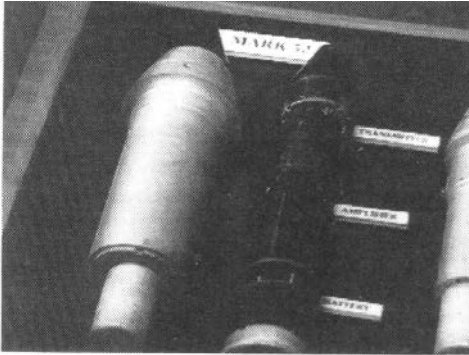


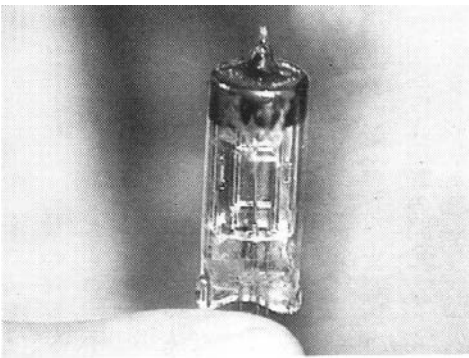
戦時下の真空管



VT信管 (ジョンズ・ホプキンス大学)



VT信管をつけた砲弾 (ジョンズ・ホプキンス大学)



VT信管の真空管

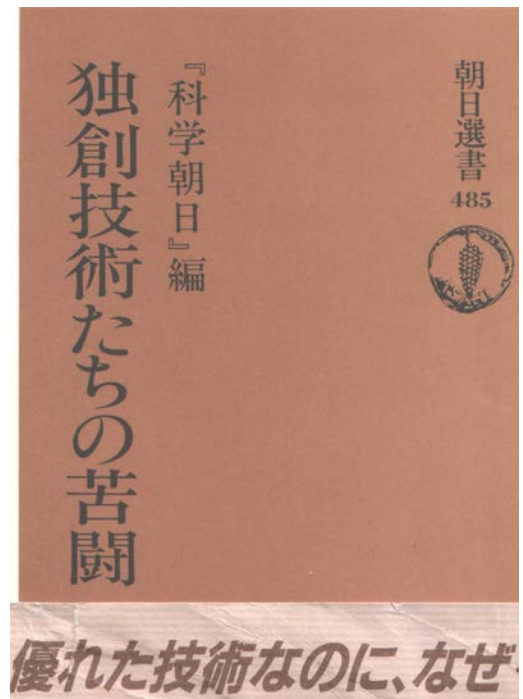


飛行機撃墜の実験 (ジョンズ・ホプキンス大学の記録フィルムより)

VT 信管 ジョンホプキンス大学開発 2200万個製造 命中率20倍、1943年1月使用開始、1944年6月マリアナ沖海戦から全艦装備

(NHK取材班編、電子兵器「カミカゼ」を制す、角川文庫)

多数の学者が参加した島田実験所
 島田に建設中の実験所(延べ建坪二〇〇〇坪)が、まがりなりにもできあがったのは、四三年五月のこと。実験所長は伊藤と昵懇な東北大の渡辺寧教授(非常勤)、これを補佐する水間は、副所長のポストについた。また水間の呼びかけで参加がきまった常勤の研究スタッフは、次の通りである。
 海軍技研・矢浪正夫技術大尉、日本無線からは山崎壯三郎技師と研究助手多数、学界からは大阪帝大菊池研究室渡瀬譲助教授、東北帝大渡辺研究室阿部善右工門助教授、元海軍技師の旅順工大高尾磐夫教授、顧問格として東京帝大の小谷正雄教授(物理)、同萩原雄祐教授(天体物理)、同水島三郎教授(化学)、東京文理大の朝永振一郎教授(物理)などが、それぞれ研究室の主だった助手を伴って参加した。当時、大阪帝大渡瀬研究室の助手だった現理化学研究所理事、小田稔もその一人であった。
 そのほか学徒動員で徴用された第一高等学校など理工系の学生が、補助員として多数参加した。そして六月の開所時には総勢一〇〇〇名の大所帯になっていた。またこれ以外にも、非常勤の立場で研究に協力した著名な学者は、菊池正士(大阪帝大)、仁科芳雄(理化学研究所)、伏見康治(大阪帝大)、永宮健夫(大阪帝大)、佐藤岩夫(東北帝大)、日野寿一(東京帝大、医学)などがある。



中川靖造 (1993)